

## ねじりはちまき

7月(文月)になりました。小暑大暑の月になりました。7月1日富士山の山開きです。7日小暑、18日海の日、23日大暑と丑の日が一緒になってます。夏の風物詩、花火大会は江戸時代雨国の川開きの時に始まり1733年、全国的な凶作と江戸市中の蔓延した疫病による死者の慰霊と悪病退散を祈って幕府が水神祭を催した際雨国境付近の水茶屋が死者の霊を弔うために献上花火をあげたのが起源とされました。当時花火を製造していたのが雨国の鍵屋とその分家の玉屋でした。打ち上げ花火の競演が始まると『カギヤー』『タマヤー』の掛け声が上がり江戸情緒はいやが上にも高まりました。花火が日本に伝わってきたのは1600年のころで初めて打ち上げられたのは1613年に江戸城二の丸で、打ち上げられたので徳川家康も見物したと言われています。江戸後期になると様々な花火が作られ一般庶民の間にも広がりました。

幸田 常一

\*\*\*\*\*

## &lt;会社近況&gt;

いつもお世話になっております。今年は梅雨明けが例年より早く、暑さで熱中症が心配されます。こまめな水分補給と休憩を心掛けたいですね。現場では引き続き住宅修繕工事などお世話になっております。

<住まいの点検> コンセントまわり編

☆梅雨時の注意点☆ ～湿気対策はなぜ必要なのでしょう～

- ・トラッキング現象による火災 →トラッキング現象とはコンセントとプラグの隙間にほこりが溜まり、梅雨時期の湿気が加わるとショートし発火、火災に発展する危険があります。

○以下の項目を点検しましょう○

- ・使っていないコンセント、さしたままになっていませんか？
- ・コンセントの上に、ほこりがたまっていますか？

これらをもし発見したらすぐにほこりを取り除きましょう。

\*\*\*\*\*

7月 旬の果物 🍑 もも 🍑

桃は7月が旬の始まりです。ペクチンという栄養素が多く入っており、食物繊維の一種で、おなかの調子を整えてくれる効果があるそうです。他にもカリウム、ビタミンC、ビタミンEも含まれ健康にも良い影響があるそうです。さらに水分も豊富に含まれていますので夏にぴったりの果物です。

\*\*\*\*\*

令和4年7月5日発行

有限会社 幸田建設

<発行責任者>幸田久美

〒969-1204

本宮市糠沢八幡 1-1

電話 0243-44-3816

<後記>今年の梅雨は、全国的に早く終わりましたね。

猛暑が続くとまたお野菜などに影響がでるかもしれませんね。

いつの間にか、熱中症にならない様

水分補給やこまめな休息などを心

がけたいものです。 ほしの

グローバル化について

先刻承知のことで、今更という感がしないでもないが、今回はグローバル化について取り上げたい。現代は、情報化が進んで地球のどこかでのニュースもすぐ茶の間に飛び込んでくるのはいうまでもなく、その出来事によっては自分にも影響を与える、身近に感じられるものが多くなっているのではないかとと思いますが。どうですか。現代は、それだけ経済を始め生活のいろんな側面で国際的に密接な関係が出来上がっているということがいえる。最近の出来事では、ロシアのウクライナ軍事侵攻が勃発し、原油の先物価格がさらに上昇して産業のコスト圧力で物価の上昇が懸念されたり、ガソリン価格の高止まりが懸念されている。また、世界的にコムギの生産が減少して、小麦価格が上昇して各種食料品価格の上昇の動きとなっている。新型コロナ感染のパンデミックでは、国外のサプライチェーン（製品製造の原料・部品供給網）がストップして国内の製品製造が停滞したり、外国人観光客が激減して観光業界が大きな打撃をうけたりと即刻影響があらわれるのである。

グローバル化が進展するには、先ずそのツールとしての交通通信インフラの発達が不可欠である。それがどのように発展してきたのか、その点から見ていこう。

それでは、グローバル化が始まったのは、いつ頃からか。そのためには、先ず海を越えなければならない。海を越えるには、船が必要になる。船といっても丸木舟ではしょうがない。15世紀に入ると、大航海時代がやってくる。17世紀半ばまで。スペイン・ポルトガルが中心で、新大陸に植民地を獲得する。その時の船は大型の帆船である。帆を張って風頼りである。次は蒸気船の時代である。1807年アメリカのフルトンが蒸気船の実用化に成功した。蒸気船は蒸気機関を使った動力船で、スピードが違う。江戸末期の1853年、浦賀に来航したアメリカの黒船は蒸気船で、しかも大砲を備えた軍艦であった。太平洋横断にはどの位の日数を要したのだろうか。1860年（安政7年）の遣米使節団は浦賀からサンフランシスコまで37日間要したという記録が残っている。蒸気船の次は動力としてエンジン方式に、電動方式にと改良が加えられていく。やがて船は貨物用が主体的になる。今度は海を越えるには空を飛ぶ飛行機の登場となる。1903年アメリカのライト兄弟が動力を備えた飛行機による有人の初飛行を行った。その後技術改良が加えられ、1927年にはリンドバーグによって大西洋横断飛行が行われ、1931年にはクライド・パングブーンとヒュー・ハーンソンによる太平洋横断飛行が行われた。そして、皮肉にも第二次世界大戦によって軍用機としてその飛行技術は飛躍的に向上したのである。戦後は旅客用、貨物用ともに世界中を飛び回るようになる。特に20世紀後半になると、大型化・高速化・機能性向上の改良が加えられ、大陸間の大量輸送を担う主役の交通機関となった。これで世界の人・貨物の交流は格段に活発化することになるのである。

(注)蒸気船で日本～サンフランシスコ間を37日要したのに対し、飛行機では10時間。

では、通信情報の分野はどうだろうか。先ず電報・電話だが、発明は電報が先で、1837年にアメリカのサミュエル・モールスがモールス信号を発明、1844年にはモールスがモールス信号の技術を用いて文章を送ることに成功する。日本では1869年国内初の電報サービスが開始され、国際電報については、日本では当初今のKDDIが国際電報を取り扱ってきたという経緯がある。電話については、アメリカのグラハム・ベルが1876年に特許を取得したが、発明自体は1871年イタリアのアントニオ・メウッチが重病の妻との会話を目的に発明していた（事情があり特許申請できずにいた）ものである。その後電話の国際通信網の整備が進み、1930年には国際無線電話が開始され、1978年には通信衛星を使ったインマルサット・サービスが開始されたのである。

パソコンはどうか。パソコンの起源は、アメリカでは1975年にMIT社が発売したのが、日本では1977年精工舎（セイコーの前身）が発売したのが初となっている。1990年代になると、マイクロソフト社から画面上で直観的に操作できるGUIを採用したOS

(オペレーティングシステム) 即ち「Windows」が登場し、どの会社が製作したパソコンであっても同様の方法で操作できる基本的仕組みが構築されたのである。今日ではノートパソコンが主流となり、普及している。移動通信手段であるケイタイやスマホはどうか。1993年(平成5年)頃までは黎明期で、自動車電話やポケベルの時代である。ポケベルは一方向のみの通信であった。それから1998年(平成10年)頃までがフィーチャーフォン全盛期となる。双方向コミュニケーションが可能となり、その外様々な機能が付加されるようになったのである。それから今日に至る状況はご存知の通り、スマートフォンが普及するようになる。パソコンもスマホも多機能であるが、今日企業においても、個人においても国際通信・様々な分野の交流にその機能は欠かせないものとなっている。その機能を羅列すると、インターネット・ライン・フェイスブック・ユーチューブ・インスタグラム・ツイッター・メールなどである。

次に我が国の海外依存度という観点から見てみたい。例えば、食料やエネルギーといった生活に欠かせないものはどうなっているのか。まず、食料であるが、食料には自給率というデータがある。最新の我が国の食料自給率は、カロリーベースで見ると令和2年度で37%なのである。どうしてこういう数字になるかというと、自給率の高い米の消費が減少し、飼料や原料を海外に依存している畜産物や油脂類の消費が増えてきたことから低下傾向で推移してきているが、近年は横ばいとなっている。海外依存度の高い品目を見てみよう。日常生活に欠かせず、用途が広いコムギについては、約86%を海外に依存している。輸入先はアメリカ、カナダ、オーストラリアの順である。畜産の飼料用穀物で見ると、トウモロコシの場合、約75%が海外に依存している。輸入先はアメリカ、ブラジルなどである。またエネルギー関係だが、石油についてはご承知の通り海外依存度が100%近くで、ロシアなどを除くと、約90%をサウジアラビア、アラブ首長国連邦を始め中東の国々に依存している。大型タンカーで3週間かけて運ぶのである。天然ガスも100%近く海外に依存している。輸入先はオーストラリア、カタール、マレーシアなどである。重要物資について数品目を見ただけでも、かなり海外に依存している状況にある。食糧・エネルギーの安全保障の観点からどう考えたらいいものか。

次に日本企業の海外進出について見てみよう。データとしてちょっと古いが、2017年の外務省発表のものである。日本企業の海外進出拠点数である。総数としては、75,531拠点である。内訳は、多い順から見ると、中国が32,349、アメリカが8,606、インドが4,805、タイが3,925、インドネシアが1,911、ベトナムが1,816となっている。世界に広がっているが、中国を始めとするアジア地域が目立って多い。いずれにしても、それだけ企業のサプライチェーンが海外へ広がっている状況にあることを示しており、一旦事が起こった時のリスクへの対応が課題である。

今回は「グローバル化」をテーマにしながら、取り止めのない書き方になってしまった。「グローバル化」についてここまで書いてきて、つくづく思ったことは、グローバル化が進んでいるということは、自分は「地球社会の一員」なのだという実感である。日本は島国であるが、あらゆる分野で世界と密接に繋がっている。このように「グローバル化」が進めば、一層それだけ世界が平和であることを願わざるを得ない。皆さんはどう思われますか。今回はこれで終わりとしたい。